



# おおくぼ

学校教育目標 ゆめにむかって かしこく やさしく たくましく  
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

令和3年2月1日第11号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関21

048(854)7636

男子120名女子114名 計234名

## 春を待つ

### 校長 金子 要一

まず、危機的状況の中、私たちの命を守るために最前線で新型コロナウイルスに立ち向かってくださっている医療、看護、介護、救急等に従事する皆様に感謝申し上げます。

さて、今年の「節分」は2月2日です。「豆まき」をするご家庭も多いでしょう。節分とは、文字どおり「季節」を「分ける」という意味です。暦（こよみ）の上では、この日で冬が終わり、明日からは春になるという季節の境の日です。

そして、節分の翌日が「立春」です。この立春は、暦の上では「春」です。現在は元日を一年の始まりとしていますが、昔の日本では、春は一年のはじまりとされ、特に大切にされていました。茶摘（ちゃつ）みの八十八夜も立春から数えます。12月の「冬至（とうじ）」と3月の「春分」の中間にあたるため、寒さの厳しい時期です。一年の中でも最も寒くなる頃に、立春が来るのです。つまり、もうこれ以上寒くならず、この日を境に、これからだんだんと暖かくなる、というわけです。このことから、昔の人は、春が始まるこの日を、一年の始まりとしたのです。

しかし、立春を過ぎた後も寒い日が続くことがあり、すぐに「春の陽気」というわけにはいきません。でも、「春一番」と言って、日本に暖かな風が吹き込み、気温が上昇することもあります。このように暖かくなったり、寒くなったりする日を繰り返すことを、「三寒四温（さんかんしおん）」と言います。三寒四温を繰り返しながら春に近づいていくのです。だから、この時期は体調を崩してしまうことがあります。季節の変化に合わせて体調管理をしつつ、心も春を迎える準備を始めましょう。

そして、人間だけでなく、自然も毎年同じように春を迎える準備を始めます。例えば、これからの時期に花を咲かせて、春が来たことを真っ先に知らせてくれる木があります。何の木でしょう。それは梅の木です。寒いこの時期から枝先に小さな蕾（つぼみ）を付け、地面の下から一生懸命栄養分を吸い上げ、春になって花を咲かせる準備をしているのです。今も木の堅い皮の下で、栄養分をどんどん蕾に送っていることでしょう。



暦の上では春になったとはいえ、まだまだ寒い日が続きます。冷たい風が吹き、これからまだ雪が降るかもしれません。でも、梅の木は、そうした寒さに耐えて、春の訪れに向け準備をしているのです。そして、寒さを耐え抜いたある日、美しい花と良い香り、「春はもうすぐそこまで来ているよ」と私たちに春の訪れを知らせてくれるのです。長く寒い冬を耐えて準備してきたからこそ、可愛くも美しい花を咲かせるのです。

私はこの時期の梅の木から、少しくらい辛くても我慢して、今、自分のすべきことをしっかりやるのが大切なのだと教えられている気持ちになります。寒い冬の先には暖かな春が必ずやって来ます。今、日本だけでなく、世界中が辛い時を過ごしています。我慢の時です。でも、自由に伸び伸びと過ごせる日々は戻って来ます。今は、梅の木が花を咲かせるために栄養を蓄えているように、普段の生活に戻った時にやりたいことを探し、その準備をしましょう。特に、6年生は卒業して中学校という新しい世界へ飛び立ちます。1年から5年生のみなさんも学年が一つずつ上がります。今の学年でやっておかなければならないことは何かを考え、それに真剣に取り組みましょう。

今はまだ寒い冬ですが、暖かな春を待ちながら力を蓄えておきましょう。